

企画展 館蔵 刀装具コレクション — 武家の嗜好品<sup>しこうひん</sup>

In Praise of Small Pleasures:

Decorative Sword Mountings from the Kosetsu Museum of Art

2022年12月17日(土)～2023年2月26日(日)



香雪美術館の所蔵品を収集した朝日新聞社の創業者である村山龍平<sup>りょうへい</sup>(1850～1933)は、伊勢国紀州藩田丸領<sup>わたらい たまき</sup>(現三重県度会郡玉城町)の武士の家に生まれました。鑑定に長じた父の影響もあり、若くして収集を始めた刀剣はコレクション形成の原点となりました。それに伴い、刀剣の外装<sup>こしらえ</sup>である拵<sup>つば</sup>を飾る鐔などの刀装具も集めました。近代において財界人が刀装具収集で求めたのは、細密で美しく鑑賞性の高い華やかな作品でした。それに対し村山は、刀装具をあくまでも武家の腰物として扱う姿勢を貫きました。そのため、コレクションは実用性を重視<sup>しつじつ ごうけん</sup>した質実剛健なものが主流です。

本展では、600件以上ある刀装具コレクションのなかから、選りすぐりの約160件を一堂に紹介いたします。武家出身ならではの村山の美意識を感じていただければ幸いです。

プロローグ 刀装具とは

古来武士は、武器のなかでも特に刀剣を重んじてきました。刀身を傷つけないように持ち歩くため、刀剣には外装である「拵こしらえ」が用意されます。拵に付属する金具類を「刀装具」といいます。手を保護するためや、柄を握り易くするためなど、それぞれの役割があります。これらは単なる部品というだけにはとどまらず、武士たちが小さな金具に自らの美意識を反映させた、「ベリー クール！」なものです。

刀身から手を保護する。



拵に付属する小刀をおさめる小さな柄。



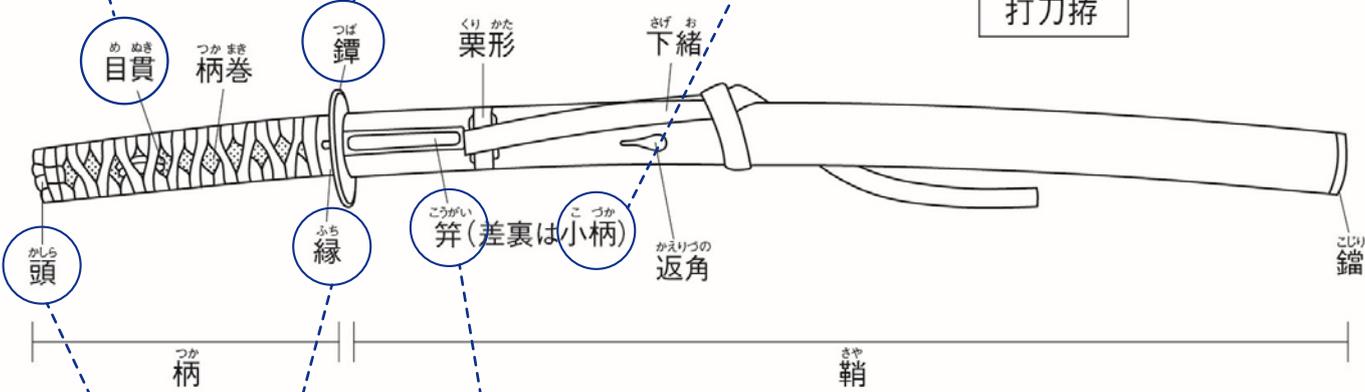
柄を握りやすくする。  
元々は刀身と柄を固定する目釘の役割を担っていた。



本来は小刀が収まる



うちがたなこしらえ  
打刀拵



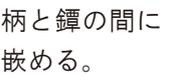
柄の先端に嵌める。



髪を整える髪搔き。兜などをつけるときに髪が乱れるために用いた。



柄と鐔の間に嵌める。



みどころもの  
三所物  
小柄・目貫・筭 →



## I. 後藤家とその周辺

村山家<sup>まさのすけ</sup>に出入りしていた刀剣商・岸本正之助は、「社長は派手なものより、後藤系の渋いものがお好きでした」と述懐しています。「後藤系」とは、室町時代から江戸時代末まで続いた彫金<sup>ゆうじょう</sup>の名門、後藤家とそれに連なる歴代職人がつくり上げた作品群のことです。祖・祐乗(1440～1512)は室町幕府八代将軍・足利義政(1436～1490)に仕え、以降後藤家は、代々豊臣家や徳川将軍家、大名家の御用を勤めました。後藤家の作品は漆黒の地に立体的な文様を施す、威厳を備えた格調高いものです。確かな彫技に裏打ちされたその作風・作品は、「家彫り<sup>いえぼ</sup>」と称されました。分家も多く、さらに後藤家に学んだ後に独立した金工も存在します。

村山が愛した、武家が身に着ける刀装具の中で最も格式が高く、最上のものであった後藤家の作品を紹介します。

### 後藤宗家



1 俱利伽羅龍図小柄 銘 徳乗作 光美(花押)  
桃山～江戸時代 16～17世紀



2 波に水鳥図小柄 銘 延乗作 光守(花押)  
江戸時代 18世紀



3 波に小禽図目貫  
江戸時代 17世紀  
後藤程乗作 (附)後藤通乗折紙



4 能管中啓図三所物 銘 小柄・筭：紋廉乗 光晃(花押)  
江戸時代 17～18世紀

後藤家分家



5 福神図鐔 銘 後藤光良(花押)  
江戸時代 18世紀



6 蘇鉄図小柄 銘 後藤泰乗(花押)  
江戸時代 17~18世紀



7 鯰図目貫 割際端銘 後藤/光正  
江戸時代 19世紀

後藤家に連なる金工



8 粟穂図縁頭 銘 縁：吟松亭/東明(花押)  
江戸時代 19世紀



9 卷龍図目貫 割際端銘 東/峯  
江戸時代 19世紀

Ⅱ. 各地の金工

江戸時代半ばになると、自由な発想で刀装具を制作する「町彫り」と呼ばれる金工が登場します。後藤家とは異なる斬新なデザインや多彩な表現技法で制作された、独創的で洒落た刀装具が生み出されました。

町彫りの祖は、元々は幕府の御用彫物師であった横谷宗珉（1670?～1733）で、独立して数多の門人を輩出しました。そのほか、同じ江戸では横谷派と双璧を成した奈良派が台頭し、京都や地方でも様々な金工が出現するなど、刀装具制作は全国的に隆盛を極めました。

江戸



10 一輪牡丹図目貫 割際端銘 宗珉／(花押)  
江戸時代 18世紀

京都



11 猿兔囲碁図目貫 割銘 寿／治  
江戸時代 19世紀

江戸



12 麒麟図三所物  
銘 小柄・笄：菊岡光利(花押)  
割短冊銘 目貫：菊岡／光利  
江戸時代 19世紀

仙台



13 双龍図縁頭 銘 縁：仙台住／清定  
江戸時代 18世紀

近江



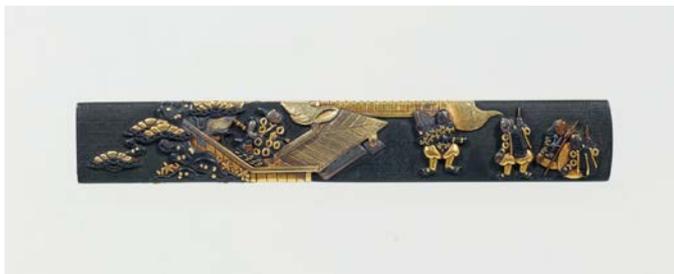
14 福神図鐔 銘 臨川堂(印)  
江戸時代 18世紀

### Ⅲ. さまざまな意匠

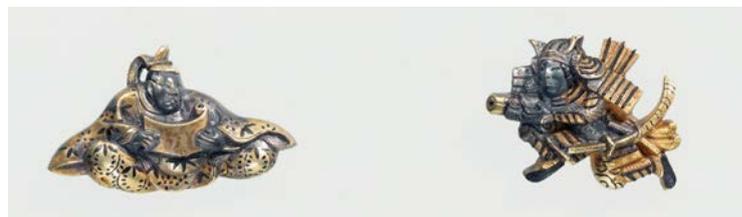
刀装具は他の工芸品と比べてモチーフが豊富であり、この世の森羅万象しんらばんしょうを意匠として用います。面白いと思ったものは何でも採り入れた様子がかうかがえます。

刀装具という性格上、武勇を示す合戦図などの意匠は、長きにわたり好まれました。一方で、美しい自然の景物や名所を表した刀装具も存在します。元来「かたいもの」である刀剣に「かたい文様」を用いるのは野暮であり、むしろ秋草や花鳥の優美なモチーフのほうが風流であるという美意識もありました。

#### 源平合戦



15 勸進帳図小柄  
江戸時代 18世紀



16 俊成忠度図目貫 割短冊銘 山崎／一賀  
江戸時代 18世紀

#### 花鳥風月



17 薄露玉胡蝶図鐔  
江戸時代 18世紀



18 筍図目貫  
江戸時代 19世紀

#### 遊戯



19 竹馬遊戯図目貫  
江戸時代 19世紀

## IV. 刀剣 — 修理完成記念特別出品

多い時には800振にもものぼったという村山家の刀剣コレクションは、現在約50振が香雪美術館へと受け継がれています。私たちにはこれらを末永く守り伝えていく義務があります。そのための活動の一環として、昨年度より刀剣の修理に着手しました。ここでは昨年度修理を終えたばかりの刀剣6振を特別に展示いたします。



20 太刀 銘 備州長船重弘 室町時代 14～15世紀

## 開催概要

会期 2022年12月17日(土)～2023年2月26日(日)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)、2022年12月26日(月)～2023年1月6日(金)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

料金 一般 1,000(800)円、高大生 600(400)円、小中生 300(100)円

◎ ( )内は前売り(一般のみ)、20名以上の団体料金

◎ 前売り券は12月16日まで中之島香雪美術館、フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています。

主催 公益財団法人香雪美術館 朝日新聞社

会場 中之島 香雪美術館  
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階  
TEL 06-6210-3766 FAX 06-6210-4190 <https://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/>  
Twitter@kosetsu\_museum

夜間特別開館 2022年12月22日(木)、2023年1月26日(木)、2月16日(木)  
～午後7時30分(入館は午後7時まで)

## 作品画像貸出一覧

- 1 く り か らりゆうず こづか めい とくじょうさく みつよし かおう  
俱利伽羅龍図小柄 銘 徳乗作 光美(花押) 桃山～江戸時代 16～17世紀
- 2 なみ みずどりず こづか めい えんじょうさく みつもり かおう  
波に水鳥図小柄 銘 延乗作 光守(花押) 江戸時代 18世紀
- 3 なみ しょうきんず めぬき ごとうていじょうさく つけたりごとうつうじょうおりがみ  
波に小禽図目貫 江戸時代 17世紀 後藤程乗作 (附)後藤通乗折紙
- 4 のうかんちゆうけいずみところもの めい こづか こうがいもんれんじょう みつあきら かおう  
能管中啓図三所物 銘 小柄・筭・紋廉乗 光晃(花押) 江戸時代 17～18世紀
- 5 ふくじんずつば めい ごとう みつよし かおう  
福神図鐔 銘 後藤光良(花押) 江戸時代 18世紀
- 6 そ てつず こづか めい ごとうたいじょう かおう  
蘇鉄図小柄 銘 後藤泰乗(花押) 江戸時代 17～18世紀
- 7 なまずめぬき わりきばためい ごとう みつまさ  
鯰図目貫 割際端銘 後藤／光正 江戸時代 19世紀
- 8 あわほ ずふちがしらめい ふち ぎんしょうてい どうめい かおう  
粟穂図縁頭 銘 縁：吟松亭／東明(花押) 江戸時代 19世紀
- 9 まきりゆうずめぬき わりきばためい とう ほう  
巻龍図目貫 割際端銘 東／峯 江戸時代 19世紀
- 10 いちりんぼたんず めぬき わりきばためい そうみん か おう  
一輪牡丹図目貫 割際端銘 宗珉／(花押) 江戸時代 18世紀
- 11 えん とい ごす めぬき わりめい とし はる  
猿兎囲碁図目貫 割銘 寿／治 江戸時代 19世紀
- 12 きりんず みこともの めい こづか こうがい きくおかみつとし か おう わりたんざくめい めぬき きくおか みつとし  
麒麟図三所物 銘 小柄・筭：菊岡光利(花押) 割短冊銘 目貫：菊岡／光利 江戸時代 19世紀
- 13 そうりゆうずふちがしら めい ふち せんだいじゅう きよさだ  
双龍図縁頭 銘 縁：仙台住／清定 江戸時代 18世紀
- 14 ふくじん ず つば めい りんせんどう いん  
福神図鐔 銘 臨川堂(印) 江戸時代 18世紀
- 15 かんじんちようず こづか  
勧進帳図小柄 江戸時代 18世紀
- 16 としなりただのりず めぬき わりたんざくめい やまざき かずよし  
俊成忠度図目貫 割短冊銘 山崎／一賀 江戸時代 18世紀
- 17 すすきつゆだまこちようずつば  
薄露玉胡蝶図鐔 江戸時代 18世紀
- 18 たけのこず めぬき  
筍図目貫 江戸時代 19世紀
- 19 たけうま ゆうぎ ず めぬき  
竹馬遊戯図目貫 江戸時代 19世紀
- 20 た ち めい びしゅうおさふねしげひろ  
太刀 銘 備州長船重弘 室町時代 14～15世紀

FAX: 06-6210-4190

取材・写真使用申込書

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 雑誌 <input type="checkbox"/> その他( )	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	撮影 <input type="checkbox"/> する (撮影機材 <input type="checkbox"/> スチール <input type="checkbox"/> ENG <input type="checkbox"/> DVC) <input type="checkbox"/> しない	
備 考	特に取材したい場所・内容等	

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

作 品 画 像	中之島香雪美術館 館 内 画 像
---------	---------------------

注 意 事 項
---------

- ・企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。
- ・原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報担当宛に確認のためお送りくださいますようお願いいたします。
- ・掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。
- ・画像の名称(作品名)、指定、展示期間、所蔵元、クレジット(ある場合)を記載してください。
- ・サイズは、(web掲載用)長辺1000px 100dpi (紙媒体用)長辺1000px 300dpi まで。
- ・ウェブ掲載の場合、掲載期間を最長6ヶ月とし、その後は削除をお願いします。それ以上の期間掲載をご希望の方は、再度ご連絡ください。

報道関係のお問い合わせ

「中之島香雪美術館」 広報担当

TEL 06-6210-3766 FAX 06-6210-4190 Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp  
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階